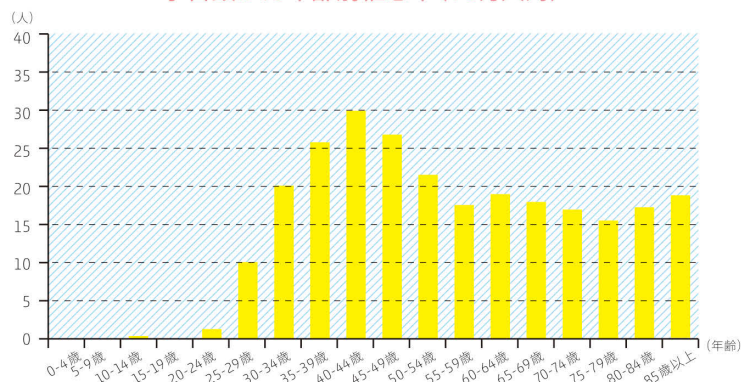


子宮頸がんは、20代後半以降から増え、特に30～40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。

子宮頸がん年齢別罹患率(10万人対)<sup>※1</sup>



早期のうちにはほとんど自覚症状がありません。

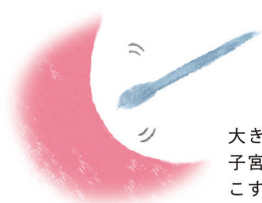
「特に異常はないから大丈夫」そう思っていませんか？  
子宮頸がんは感染から発症まで、平均5-10年かかり、早期には自覚症状がないため、「異常を感じたら」では手遅れになる場合があります。

※1 出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録全国推計によるがん罹患データ（1975～2013年）

## 子宮頸がん検診ってどんな検査？

検査時間は15分程度。痛みはそれほどありません。

1. 医師による診察
2. 細胞診



大きめの綿棒などで子宮の入り口を軽くこすって細胞を採取。

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。<sup>※2</sup>

精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査などを組み合わせて行います。

※2 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

子宮頸がんはHPV(ヒューマンパピローマウイルス)への感染がきっかけとなります。感染してもほとんどの場合は一過性ですが、ごく一部の人で感染が継続し、長時間を経てがんにいたることがあります。

注) HPVは、一度でも性交渉の経験があれば感染している可能性があります。

子宮頸がんは、早期のうちに治療すれば、90%以上が治癒します。<sup>※3</sup>

子宮頸がんが進行すると、子宮摘出手術が必要となる場合もありますが、早期のうちに治療すれば、子宮を摘出せずに治療できるため、妊娠・出産も可能です。検診を受け早期発見・治療することにより、がんになるリスクや死亡リスクが減少します。

5年相対生存率

早期発見した場合  
(I期)  
**93.0%**

早期発見できなかった場合  
(IV期)  
**29.2%**

※3 ここでいう「治る (=治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典：全がん協加盟施設における5年生存率（2008～2010年診断例）

多くのがんは、2年に1度の検診で早期発見できます。ただし、中には急激に大きくなるものもあるため、月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院へ行きましょう。

子宮頸がん検診は  
2年に1度必ず  
受診して下さい

